第 350 回

広島県内水面漁場管理委員会議事録

(委員会開催日 令和5年5月11日)

第350回広島県内水面漁場管理委員会議事録

1 開催日時及び場所

日 時 令和5年5月11日(木) 午後2時00分～午後3時42分

場 所 広島県内水面漁場管理委員会委員室
(広島市中区基町10-52)

2 開催告示月日及び招集者

告示月日 令和5年4月28日(金)

招 集 者 広島県内水面漁場管理委員会 会長 辻 駒 健 二

3 出席者

委員(8人) 辻駒健二、飯尾協、八谷輝行、山下頼信、小池勝、河合幸一郎、中尾文治、宮林豊

県(5人)	農 林 水 産 局 水 産 課	課 長	木村 淳
	〃	主 査	木村 剛司
	西部農林水産事務所水産課	課 長	山根 康幸
	西部農林水産事務所水産第二課	課 長	寺田 誠
	東部農林水産事務所水産課	課 長	横山 憲之

事務局(3人) 福地次長、中林主査、青山技師

4 傍聴人(利害関係者等)

なし

5 議題及び報告結果

(1) 付議事項

第17号議案 遊漁規則の変更について

(結 果) 原案のとおり承認された。

(2) 協議事項

第5種共同漁業権に係る増殖指針について

(3) 報告事項

内水面漁場計画素案に対する意見聴取の結果について

(4) その他

令和5年度広島県内水面漁場管理委員会の開催予定について

6 議事の経過

午後2時00分、事務局の福地次長が第350回広島県内水面漁場管理委員会の開会を宣言し、委員総数10名に対し出席委員は8名で、本委員会が成立していることを報告した。

続いて、議長あいさつの後、議事録署名者に宮林委員と中尾委員を指名し、議事に入った。

【第17号議案 遊漁規則の変更について】

議長 それでは議事に入ります。第17号議案「遊漁規則の変更について」を上程します。事務局から提案理由などの説明をお願いいたします。

福地次長 (提案の理由及び根拠規定を説明した。)

青山技師 (資料1-1、1-2及び1-3により遊漁規則の変更について説明した。)

議長 ただいま県から、水内川漁協の遊漁規則の変更について説明がありました。委員の皆様のご意見、ご質問をお願いします。

飯尾委員 まず、変更の規定の仕方に関して、リールを使用してはならないという書き方で、中身はルアー釣りの期間を定めている。ルアー釣りというのは友釣りの中の一部で、ルアー釣り禁止でなくリール禁止と書けば、ルアー釣りが制限されるということになるのでしょうか。

福地参事 昨年度に諮問した太田川漁協の時は、リールを使いかつ活きたおとりアユを使って釣られる方がいる事情から、今回の書き方と異なっております。水内川漁協の場合、リールを使うのはルアー釣りの方のみという認識で、このような書き方にしていると伺っています。

飯尾委員 今回の書き方で遊漁者には通じるのでしょうか。

福地参事 そのように聞いております。

小池委員 この書き方が妥当ではないですか。例えばルアーと言え、友釣りでも最初のおとりアユを釣るのに使われます。「リールを使ってはいけない」とした方が、表現が柔らかい。ルアーとすると疑似のおとりアユもだめなのかと、ややこしくなるので、

ルールにしていたら問題ないのではないかと思います。

議長 ルアーとリールというのは、アユの形をした仕掛けがあるが、それを投げるのはどうなるのだろうか。

小池委員 この文面でいくと、普通の竿でアユの形をしたルアーで友釣りをするのは良い。リールを使うのはいけないとした方が柔らかいし、誤解がなくていいのではないのでしょうか。

山下委員 リールを使わなくてもルアーは使いますからね。スプーンが多いが、いろんなルアーを使っています。

議長 友釣りでも使うわけでしょう、活アユと疑似のアユと使う人がいます。

河合委員 ルアーや疑似アユを使ってはいけないとは言っておらず、リールを使ってはいけないと言っています。

小池委員 そうすることで、今回の変更理由として挙がっている、キャストしては移動するルアー釣りを制限しようということです。

河合委員 ころがしができる時期になれば、リールを使った友釣りをして良いということですよ。アユをひっかけるという意味では、結局同じようなことだと思うので。

飯尾委員 規定上は、リールを使わなければルアーを使えるということで良いですか。

河合委員 そうだと思います。これはルアーを使ってはいけないとは言っておらず、リールを使ってはいけないと言っています。

小池委員 ルアーというと難しいでしょうね。

議長 活きたアユなら泳いでちよろちよろするが、ルアーは動かないでしょう。

小池委員 操り方があるんでしょうね。

山下委員 細かく動かせば泳いでいるように見えます。

議長 例えば、リールを使ってはいけないなら長い糸を用いるのはどうなのでしょう。友釣りの竿だと糸の長さが決まっています。水内川漁協だけこのような整理をしているのですか。

宮林委員 水内川は太田川と同じ水系で繋がっているが、今回の規定は太田川の時と違いますよね。

福地参事 はい、異なる規定になっています。

宮林委員 太田川漁協との兼ね合いは問題ないですか。

福地参事 そこは問題はなさそうです。

宮林委員 同じ水系で異なる規定を設けることに関して、遊漁者にとって分かりにくくないですか。

福地参事 漁協としての考え方が、太田川漁協と水内川漁協とで違う面があると思います。太田川の方は、アユイングという、キャストイングをして移動しながら釣るというやり方は好ましくないという考えがあるので、アユイングをできないようにしたかった。その結果、活きたアユという文言を入れられました。ただ、足の悪い方で、リールを使いかつ活きたアユを使って釣られる方もいるので、そういう方々に配慮した書き方になりました。水内川の場合は、活きたアユとリールを使って釣る方はいなくて、リールを使うのは疑似アユの方ということで、アユイングを意識して改正をされたものではあります。禁止をするのではなく、時期を区切って一部受け入れ認めることで、遊漁者が増えればという考えがあります。そのあたりは、両組合とも、違う考えで規則を作っていると周知をしていただくことが必要になるかと思います。

中尾委員 今回、規則だけを見ると「あゆを対象とする友釣りにおいてリールを使用してはならない」と、単純に言えばそういうことになるので、アユを対象とする友釣りであればリールを使用できるわけですが、それは問題ないのでしょうか。現実にもそういうことはないのかもしれませんが。

河合委員 上流域になるとジグやミノーというしかけを使ってアマゴを釣るが、それはアユを対象としていません。

中尾委員 場所で区別できるという理解でよろしいでしょうか。結局は、この場所で友釣りのみできる期間中リールを使用させたくないだけだと思いますが、この条文だとそれはアユを対象とする友釣りに限定し、アユを対象とする友釣りではない魚をターゲットにしている場合はリールを使っても良いということでしょうか。

福地参事 水内川の漁業権の対象になっているのがます、うなぎ、あゆ、こいです。アユの友釣りをする場合と、それ以外のコイ、ウナギ、マスの場合では釣り方が違います。その他の魚のルアーを使う、リールを使うということと、アユの友釣りをするここでは、漁場や釣り方そのものがセパレートされていると思います。その為、まずはアユイングというものを考えたとき、アユのところで規制をし、住み分けすれば問題ないと思われれます。

中尾委員 分かりました。場所がセパレートされているということですね。

山下委員 あゆの期間とますの期間が重複するのではないですか。

河合委員 そうですね。完全に重複しますね。

山下委員 マスはルアーで釣るものですね。

小池委員 水内川漁協は下流のアユの部分でやってほしくないと言っているのではないですか。

山下委員 いやいや。マスはルアーでできるとなると、問題が起こるのではないですか。

河合委員 同じところにアマゴもアユもいます。期間も場所も重複すると思われます。

小池委員 水内川漁協の苦肉の策だと思います。遊漁者を減らしたくないし、自組合員のアユ専門の人らともトラブルを起こしたくない。

山下委員 アユとマスで漁場又は期間を分ける、あるいは「アユの友釣りを邪魔しないようにマス釣りをしなければならない」といった規定を設けるべきではないですか。

小池委員 文言には「あゆを対象とする友釣りにおいて、あゆの遊漁期間開始日から前項のころがし漁開始日…」と書いてあるが、ルアーとリールを使っていて「私はアユを狙っていない」という人がいるとこの文言では弱いかなという部分はありますね。

山下委員 太田川で昔そのような事例があったのです。

小池委員 苦肉の策で、水内川漁協が出された案だと思うが、少し改善点があると思われます。

山下委員 アユとマスとは、全く別のものとして考える必要があると思います。

小池委員 太田川の場合だと下流の方はほとんど溪流魚がいないので、下流でルアーをしているとおかしいとなりますが、水内川はそうはいかない。

山下委員 友釣り区間は太田川でもマスはいます。

小池委員 そこまで言っていたら、じゃあスズキを釣っていると言ったらどうなるのかということになります。

飯尾委員 そうやって釣る人は、いわゆる「浜の真砂」で絶えないので、それを文言で線引きするのはなかなか難しい。「あゆを対象とする」で表現上は限界だと思います。

山下委員 アユを主体としてやっているわけなので、「ルアーをする人はアユ釣りの邪魔をしないように」という文言を入れておかないといけないと思います。

河合委員 今はそういうことを明記するのは、釣り人口の関係から難しいのではないですか。

山下委員 いや、太田川はそういう文言が入っていたと思います。

飯尾委員 遊漁者に配る資料にですか。

河合委員 ころがし漁ができるようになったら、リールで普通のルアーでやってもいいということですよ。ころがし漁の解禁が6月から11月の間のいつ頃始まるかで、あまり遅いと、リールを使ってもよい期間が遊漁のほんの一部になってしまいます。

山下委員 水内川はころがしの開始時期はたしか7月だったと思います。

河合委員 それなら問題ないですね。

小池委員 溪流が8月31日で禁漁になります。

河合委員 それなら十分に遊漁期間があるため、問題ないですね。

福地参事 今年のころがしの解禁日は8月2日で設定されています。

河合委員 リールを使えるようになるのが2か月遅れるだけです。それなら問題ないと思います。3か月ぐらいリールを使った遊漁期間があります。

議長 トラブルを起きないようにすることもありますが、遊漁者を増やすということも必要ではないかと思います。ルアーをする人を認めることは、遊漁が増えることだと思います。若い人はルアーしかしないですから。

河合委員 餌を持たず、バックと竿とタックルだけを持っていきます。

山下委員 友釣りをする人にとっては、ルアー釣りをする人は邪魔なんですよ。

議長 友釣りだけが瀬を占領するのではなく、遊漁者の皆さんが川へ入れるような環境を作らないといけません。これはモラルの問題でもあります。

河合委員 漁業者と遊漁者ともに、どの魚種を対象にしている場合でも平等でなければ、遊漁者が増えません。実際に友釣りの方が何人かいると、餌釣りで大きいヤマメを狙おうとしても、遠巻きにして良い瀬は諦めています。夕方になると友釣りの方は帰られるのでそこに入るしかありません。

議長 昔とは状況が変わっているため、ルアーの方も友釣りの方も互いに譲りあってやっていかないとはいけません。水内川漁協の組合員や、組合長の話聞きながらやっていけばよく分かるのですが。この提案を認めてもよいですか。

山下委員 「従来の友釣りに配慮しつつ」というのがひっかかる、「邪魔をしないように」ということであれば分かりますが。「友釣りの邪魔をしないように」とする必要があると思います。

飯尾委員 これはむしろ形式上はルアーを制限しているという規定になります。水内川漁協がやりたいことが悪いわけではなくて、文章の表現上通じるのかどうかということです。

河合委員 リールを使わずにルアーを使うことはほとんどありえません。そうすると、リールを使用してはならないという表現が、ルアーで友釣りの邪魔をすることをやめて下さいという意味になると思います。

小池委員 友釣りの期間中はマスを狙ってはいけないのか、となる可能性があります。最低限、区間を設けるべきではないですか。

山下委員 そうですね。友釣りの期間、ここでマスは釣れないのかと誤解される可能性があります。

小池委員 ある程度区間を決めておかないと、上流域だと思ってマスを釣っていても、今は友釣り期間だからルアーのリールを使ってはいけないとなってしまうと、溪流魚の遊漁券が売れなくなってしまうから。

河合委員 2か月遅れでころがしが解禁になって、それでリールが使える・ルアーが使えると

なったら、それほど問題にならないのではないですか。

小池委員 6月、7月ごろにマスを狙っている人にとっては誤解が生まれます。

河合委員 たしかにそうですね。いい時期ですから。しかし、その時期はやはり友釣りの書き入れ時なので、その時期は配慮するという形にしてもいいのではないですか。

議長 そもそも、マスはアユの友釣りをする場所にいるのですか。

山下委員 水内川はいます。

河合委員 密度はすごく低いですが、たまに学生が掛けていることがあります。

議長 私たちの感覚では、流れのある所にマスはいないと思っていました。

山下委員 水内川は「ここは自分の釣り場だ」という感覚があるので、そこに入ってきてルアーをやるから問題になったのではないかと思います。

議長 そのへんはどうですか。大丈夫ですか。今日決定しないといけないのですか。文言で修正点があれば、修正して承認しなければならないですが、もう少しで解禁になるでしょう。

小池委員 水内川漁協の組合員の人はほとんど賛成しているから、別に漁協はこれでいいと言っているんですよ。

山下委員 漁協が賛成していても、遊漁者が賛成しないといけません。1年やってみて、それで問題があれば来年再度変更すればよいと思います。

八谷委員 いずれにしても、決まりというのは守る人・守らない人が出ます。実際に監視に行った時にどういう指導をするかということになると思います。今年度はこれでいって、1年間監視員等で現場を確認したうえで、問題があれば再度、直す方がいいのではないのでしょうか。

福地参事 ご指摘をいただいたのは、マス釣りにルアーを使われることとの兼ね合いについてだと思います。漁協から今回の変更について聞く中ではそういう話もなく、マスと言えばかなり上流で釣るもので、場所的に重なることはないという印象を持っておりまして、その辺りの認識が足りなかった面がありました。今回ご承認ただけて変更することになった場合、認可時にマス釣りとの兼ね合いもあるのでよくよく様子を見ておくように、そして何かあれば対応するように、漁協に注意喚起したいと思います。

議長 それでよろしいですか。

全委員 はい。

議長 他に意見はありませんか。

異議なしということですので、組合がトラブルがあれば、対処するという一方で、第17号議案については、異議はないが、マス釣りとの関係に注視するように答申する

ことといたします。

全委員 はい。

【協議事項 第5種共同漁業権に係る増殖指針について】

議長 続きまして、協議事項に移ります。「第5種共同漁業権に係る増殖指針について」、県から説明をお願いします。

福地参事 (資料2-1及び2-2により、増殖指針について説明し、資料2-3及び2-4により、アユの増殖指示量算定の考え方について説明した。)

議長 ただいま県から、増殖指針について説明がありました。協議事項ですので、委員の皆様、忌憚のないご意見、ご質問をお願いします。

河合委員 資料2-3の生息基準尾数の出し方なのですが、早瀬と平瀬と淵で規定の係数をかけるようになっていて、早瀬が一番生息密度が高くて、係数が大きくなっています。しかし実際には、早瀬でも工事で砂が溜まってしまって浮石ではなくなっていると、アユの生息環境としては悪い。淵でも、大きい石が点々としているところは優れていると思います。そうするとこの係数はあまり意味がありません。早瀬でも砂が溜まって生息密度が落ちているといった現状が反映されません。今回は航空写真で面積は出ているが、深さは測ってなくて、浅い淵だと0.3どころか、ほとんどゼロになってしまいます。便宜的にやっているだけで、生息基準尾数というのは意味がないと思います。本当は現地に行って、航空写真と組み合わせながら面積を出すと正確になるでしょう、相当な労力がいると思いますが。それともう一点、小瀬川の広島県側ですが、昔よく行っていましたが、漁業権放棄というか吉和川に吸収された感じですよ。河川環境が良くないというのは、具体的にどういう意味で良くない、放棄としているのかを教えてくださいたいです。

福地参事 その辺りは漁協からのヒアリングになります。小瀬川の流域ですと七瀬川のあたりがあまりよろしくないということでした。

河合委員 もともと、七瀬川は木野川の中では全国的に有名ないい漁場だったが、洪水や出水の影響ですかね。水害の影響で荒れたままになっているのでしょうか。

飯尾委員 全般的な話では平成17年に水害があったらしく、その後アユ漁場が平坦化してしまい、漁場として機能しなくなりました。それで遊漁者は減るし、組合員も釣れない、放流をしても効果が出ないということが時系列的にあり、漁場を管理していく意欲が下がったという経緯があります。吉和川は、利用の仕方によってはアユに関してはまだまだ維持できる部分があるのではないかとということで、力を貸してくれるというのが流れだと思えます。

河合委員 下流の方は確か芸防漁協になりますよね。広島県側の上の方ですよ。もともと、七瀬川は良かったが、そこが悪くなって価値がなくなってしまったということですね。

飯尾委員 漁場が悪くなった箇所に関しては、七瀬川と特定して話されてはなかったと思います。アユ漁場で言えばもう少し下流のほうだったと思います。そこらへんは詳しく聞いてないので分かりませんが。

河合委員 もったいないが、仕方がないですね。

小池委員 木を伐りだしたら川はぐっと変わりますからね、あれだけ有名な川でもね。

河合委員 七瀬川には特設漁場がありましたよね。いわゆる区間を限ってそこに放流して、別料金をとる形式のものです。あれはなくなったのですか。

福地参事 マスの管理釣り場のことでしょうか。

河合委員 そうですね。そこはまだあるんですか。

福地参事 今回はアユの漁業権の話なので、マスの管理釣り場は残っています。

飯尾委員 産卵床造成に関して、資料2-1ではコイについて記載されていますが、資料2-2ではコイ・フナと記載されています。フナに関してはどのようにされる予定ですか。

福地参事 今、議論になっているのがコイということなので、まずはコイから考えております。コイを試験的に行ってみて、その様子でフナも取り入れてみようかと。

議 長 今、コイヘルペスの問題があって、コイの放流を制限・自粛しています。もう何年そのような状況ですかね。

宮林委員 20年くらい経つのではないですか。

議 長 広島県で黒コイの養殖をしているところはありません。このままいくと廃れていきます。コイ文化を繋いでいく対策が必要です。今、広島県の21の漁協でコイ・フナの漁業権を持っているのはどのくらいありますか。

福地参事 13（正しくは16）の漁協にコイの免許がされています。

議 長 漁業権を持っている組合は、義務でコイとフナの産卵床造成をやっていくぐらいの活動をしていかないといけません。いい例があるのだから、このようなものを出していくべきです。縄に使うシュロがいいのではないかと思います。丈夫で、1年2年で朽ちるようなものでないです。そういう努力をすれば、そんなに経費もかからないと思います。組合で努力するというのをしないといけないと思います。それとも一つ、アユの1匹当たりの換算が5グラムでしょう。池を持っている組合は5グラムで放流しますが、ほとんどが7グラムを超えて、大きいと10グラム以上という状況です。現状と指針とで差があるのをどうするか、ということがあります。5グラムのアユを購入しようとしても、出荷先が嫌がります。東部アユセンターも困ったことがあ

るでしょう。

八谷委員 4月に放流をされると言われた時は困ります。

議長 今は5グラムのアユを入手するのは、どこの漁協も厳しい状況です。餌代が高くつくから、5グラムになったら放流したいというのが現実なんです。組合長を長年やった経験から言うと、実はどこの漁協も河川改修等が多くあって、ここ10年ぐらいは災害が起きていたから、協力金等々で漁協に蓄えがあるからアユの放流量が多い。10年経つとかなり厳しくなるんじゃないかと思います。餌代が上がり、燃料代も上がっています。大変な状況になってくると思います。江の川漁協に聞けば、昨年と同じ量を放流しようと思ったら600万円から700万円ほどお金が足りないと言っていました。そういう状況が出てくると思います。それでも指針の放流量は5グラムで計算しています。そこらへんも検討しないといけないのではないですか。

他にはないですか。

八谷委員 基本的には計算はするが、現行の指示数を基準にやっていくということでしょう。

福地参事 はい。

八谷委員 どれぐらい放流するのかについては、川の環境や放流する時期、種苗の大きさで考えます。やはり放流してみんなが楽しもうと思ったら、数量の調整が必要だと思います。川の状況にもよりますし。県北は田植えが5月の連休明けにあります。この時期までは、田んぼの作業の影響で川がずっと濁ります。実際には5月の連休以降の放流が一番良いのですが、養殖業者の方からするとそれでは遅い。一番状態が良い時の放流が中々難しい。この数量なら、実費分を考えながらやっていきますのでいいと思います。

議長 他にありませんか。

他に意見はないようですね。この議題で何か決めないといけないということですか。

福地参事 今回は協議をさせていただいたことですので、ご意見を頂戴して引き続き検討を進めてまいります。今、水技センターの方からも話をいただいておりますので、増殖目標量の算定の仕方そのものについてゼロベースで話をしてみようかと思っております。

議長 組合の状況、河川の状況というのは組合員が一番良く知っています。先ほど、委員の方々が言われたように、淵がなくなったり早瀬がなくなったりしている状況の中での放流になって来るので、今も2、3年前の工事が継続しています。よい時期に放流しても濁りが出ることによって効果が見込めない。そういう状況もあるので組合員さんを含めて遊漁者の皆さんにはご理解いただく中で、組合運営をしていくことになる

と思います。

議 長 みなさんいいですね。

全 委 員 はい。

【報告事項 内水面漁場計画素案に対する意見聴取の結果について】

議 長 続きまして、報告事項に移ります。「内水面漁場計画素案に対する意見聴取の結果について」、県から説明をお願いします。

青山技師 (内水面漁場計画素案に関して、利害関係の意見を募集したところ、特に意見がなかったことを報告した。)

議 長 なかったということですね。

青山技師 はい。

議 長 意見がないということだから質問もないですよ。

【その他 令和5年度広島県内水面漁場管理委員会の開催予定について】

議 長 それでは、その他に移ります。「令和5年度広島県内水面漁場管理委員会等の開催予定について」を、事務局から説明してください。

福地次長 (資料3により令和5年度広島県内水面漁場管理委員会等の開催予定について説明した。)

議 長 それでは皆様、開催予定について何かご意見はございませんか。

全 委 員 はい。

議 長 以上をもちまして、本日予定しておりました議事は、すべて終了いたしました。委員の皆様から、何かありますか。

飯尾委員 今日議題とはあまり関係ないですが、遊漁規則の話で「遊漁は不当に制限されてはならない」と、法律上そういう位置づけになっています。例えば漁法について、全組合員ができる漁法については遊漁者もできるように、というような解釈が国から示されていたと思います。ある内水面漁協から、県の方から遊漁料について組合員の行使料を上回ってはならないと指導を受けていると聞きました。内水面漁協の組合員は、漁場の利用に要する行使料に加え、漁協の運営に係る費用や直接お金で表せないボランティアのような負担を課せられています。遊漁者にはそういった負担がないわけだから、行使料と遊漁料に差があっても良いように思います。県が遊漁料の変更をなかなか認めてくれないため、行使料のほうを上げざるを得ない状況が起き、組合員がおかしいと言っている。今、全国的に組合員が減って、漁協組織そのものが維持できなくなっているという声があり、例えば国の水研の人からも、組合員になったのだから

遊漁でやるよりはプラスの面があっても良いといった意見もあります。そういうことから、遊漁料は行使料を上回ってはならないという話が本当にあるのかと。もし、国の指示であれば全国的な話でしょうから、全内漁連に言ってその真意を確認しなといけません。遊漁規則と行使規則の認可の時期までに、そういう仕組みについて本当はどうかというところを教えてください。

木村課長 具体的に相談されている事例がありますか。

飯尾委員 そういう声を耳にただけで、事実確認はしていません。

木村課長 また教えてください。少なくとも最近そういう話をしたことはないです。

飯尾委員 はい。

議 長 組合の経営の中で、問題は資格審査委員会ですよね。1年間で何日以上でないといけないとか、それを下回ると準組合員になる。ある大学の先生が、全国に組合員が25万人いて、1年間で辞めるのが1万人いる。25年先には組合員はゼロになるということを書いていました。この数字は間違っていないと思います。今、広島県には21の組合があって組合員は全漁協でどのくらいですか。

飯尾委員 4,000人前後だと思います。

八谷委員 毎年5%が脱退しています。

議 長 本当に大変ですよ。厳格にやればやるほど首をしめるようなものです。若い人は、賦課金と行使料を払って、組合員に留まるということが非常に厳しい状況です。漁協の関係地区内に住んでいないと正組合員になれないという規制もあります。広島方面に住んでいて、土日は帰ってきて魚を獲るので組合員にしてくれというような人もいて、そういうところも認めてやらないといけません。さきほどのルアーの話にも関係しますが、認めることで遊漁者を増やす取組や、組合員にも遊漁者の行っている漁法を取り入れていかないといけないと思います。

河合委員 漁協の収入の中で行使料と遊漁料の収入はどんな感じなんですか。

議 長 そのあたりも21の組合に見てもらって考えてもらう、そういったことも内水面漁場管理委員会の役目ではないかと思っています。

河合委員 今、フライをやる有名な人が来ていて、話を聞く機会がありましたが、群馬県の漁協は組合員が少ないため、行使料の収入が少ないが、ほとんどが遊漁収入で成り立っている。しかも、遊漁の年券の額は安いですが、年間5千万円ぐらい溜まっているという。どういうやり方かは分からないが、アユよりは溪流魚の方が赤字にならない。種苗費よりも遊漁収入が大きく、儲かっているというお話でした。行使料と遊漁料がどれくらいの割合のところか経営状態がいいといったようなデータがあったらいいですね。

議長　　マスは、解禁の直前に放流する場合、ほとんどが100グラムを超えており、尾数にすると多くなく、アユもそうで、10グラムを超えたものを喜んで放流するという組合の現状があります。昔のように資源は豊かでなくなってきましたが、それでも漁協が自然河川を守っているからこそ維持されています。

河合委員　　漁協が解散して、県の条例だけになると、数年で何にもいなくなると言っていました。

飯尾委員　　県の河川計画は環境と書いてありますが水面の上の環境を指していて、水面の下の環境については一切書いていません。5年前は記載してありましたが、それが削除されています。

議長　　三篠川を帰りに見ることがあります。災害があったため5メートルの川が10メートルになっています。水が流れる箇所はわずかしかなかった。淵がわずかにあって、そこにアユが入っています。それでも漁協があるから何とか川が保たれています。21の漁協の運営状況というものを委員に皆様に見ていただかないといけませんね。

山下委員　　太田川漁協は行使料が組合の運営費で、放流費等は中国電力の協力金などからでています。

議長　　太田川漁協は昔からすると組合員数は3分の1ですよ。

山下委員　　5分の1だと思います。一番多い時で4,000人ぐらいいました。

河合委員　　今は、解禁日が土日に重なっても人がいません。

議長　　県の方からありませんか。

福地次長　　これから内水面漁業権関連の議題で委員会の開催が続きます。次回が6月中旬ということで、できるだけ早めに日程調整を行ってまいりますので、よろしく願いいたします。

議長　　他にないですか。

全委員　　はい。

議長　　他にないようですので、これをもちまして、第350回広島県内水面漁場管理委員会を終了します。慎重審議をしていただき、ありがとうございました。

(午後3時42分 閉会)